



未来のために、過去を砕く。
扉の先に課せられたのは、
時を架ける使命。

富山県・伏木。遥か昔を頂く立山連峰と波頭
際立つ日本海が織り成す、最厳峻れたその
歴史古い街に、この施設はある。白く清潔に
保たれたその施設の中、抜ける空色を身に
まとい、正確な音を響かせながら、未来へと
繋がる作業を続けているのはクボタが誇る、
ディープリサイクルシステムである。

「世界がめざす、持続可能な、人間の経済発展
と豊かな地球の未来継承。その両立に向けて
の重要な課題である。人類が地球から取り
出した資源の有効活用を、極限まで高める
ことはできないものなのか」

クボタは、そんな、高い壁に、真る向挑戦
しています。

様々な材質、形状の廃棄物を出来る限り細
かく砕く、その破砕力、それら破砕物を的確
かつ精緻に分別する、その選別力。それらの
力は、今までは廃棄するしかなかった物をも
資源化することに成功し、このクボタが長年
培った技術とシステムは、地球レベルの環境
意識の高まりの中で、日本のみならず世界の
国々で採用され、やがて来る資源循環社会
の礎となり続けているのです。

光の漏れる扉の先から始まる、鮮やかな空色
のシステム。そのシステムは、今日も、与えられ
た役割という舞台を全うした様々な製品を、
時を架けて、資源という新たなステージへと
送り出し続けている。胎動の知きシステムを
刻みながら、未来の希望を生み出し続ける、
母なる機械のよう。

壁がある。
だから、行く。